

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽 I	2	1	芸術選択生徒

使用教科書	副教材等
教育芸術社 「MOUSA①」	ソプラノリコーダー

<p>科目の目標</p> <p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性などについて理解するとともに音楽表現について必要な基礎的な技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素の働きを感受しながら、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わっている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽や音楽文化に関心をもち、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

評価方法	
ア	定期テストや小テスト 【評価の観点 知識を体系的に理解しているか。】
イ	課題の到達度テスト、表現活動の分析 【音楽的に表現する技能を身に付けているか】
ウ	行動の観察、確認、分析 【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現したり聴いたりしているか】
エ	行動の観察、確認、分析 【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が出来ているか】

学習計画						
月	題材または教材 (学習項目)	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●表現(器楽)	ソルフェージュ	・基本的な知識1 (単純な分割リズムを演奏できる)	○		○
5		(1) リズムを聴きとる練習	・基本的な知識2 (付点音符やシンコペーションがわかる)	○		○
		(2) リズムを打つ練習	・基本的な知識3 (タイを用いたリズムが演奏できる)	○		○
6		●表現(器楽)	リコーダー	・基本的な知識4 (16分音符のリズムに慣れる)	○	
7	(1) グリーンスリーブス		・基本的な表現1 (楽器を用いた長音階が演奏できる)		○	○
	(2) C-a-f-f-e-e		・基本的な表現2 (リコーダーの音色や奏法との関わり理解)		○	○
	(3) 天国と地獄		・基本的な表現3 (音色、リズム、速度、旋律、形式や構成などの働きを感受しながら、表現意図をもった演奏ができる)		○	○
9	●表現(声楽・器楽)	音楽的視野の拡大	・基本的知識の習熟(リズムを拍単位で捉えることができる)	○		○
10		声楽(1) 日本語と旋律	・基本的な知識5 (音程の理解)	○		○
11		(2) 詩の心を大切に歌おう	・基本的な表現4 (音程感のある演奏ができる)	○		○
12		●表現(創作)	コード進行を基にした旋律	・コードの響きと重ねる音の響きを感受しながら、創作に主体的・協働的に取り組もうとしている。	○	○
12	●鑑賞・声楽	音楽を織りなす様々な要素	・基本的な表現5 (構成感のある演奏ができる)		○	○
1	●表現(歌唱・器楽)	・日本の伝統音楽	・謡(ツヨ吟、ヨワ吟)の曲想と謡の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。		○	○
●鑑賞		歌唱: 能《羽衣》から 器楽: 篠笛/三味線/箏から選曲	・和楽器の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を創意工夫している。		○	○
		・アジア地域の諸民族の音楽	・世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、及び音楽表現の共通性や固有性に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○	○
2	●表現(歌唱)	(1) 合唱「進級に向けて」	・アジア地域の音楽鑑賞で知覚した音楽表現の共通性や固有性を生かした表現が出来る。		○	
	●表現(器楽)	(1) 器楽アンサンブル「星に願いを」	・ハンドベルによる小アンサンブルとクラス全員での合唱形態によるそれぞれの良さや持ち味を感じ取り、学習成果としてふさわしい表現を工夫する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術 I	2	1	芸術選択

使用教科書	副教材等
光村図書「美術 1」	なし

科目の目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術と美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・美術と美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●デザイン (表現) (1) レタリング (2) 色彩原理	・文字をデザインする	美術の造形要素を理解し、形や色に興味をもつとともに、創造的な表現の構想を練る。また、レタリングの書体・部位を的確に描写する技能を習得し、意図に応じて工夫して表す。	○		○
5 6	●デザイン (表現) (1) マーク (2) 藍染体験	・マークやサインで伝える	目的や機能、状況から主題を生成し、マークに表現するための形と色彩の構想を練るとともに、意図に応じた創造的な表現を工夫する。	○	○	
7	●西洋絵画 (鑑賞) (1) 西洋画の歴史	・美術鑑賞を楽しむ手がかかり ・美術史年表	西洋の中世～近世の表現の工夫や歴史について理解し、そのよさを味わう。	○		○
9 10	●デザイン (表現) (1) 色彩演習 (2) ポスター制作	・メッセージを広く伝える	伝えたい内容にふさわしい表現方法を考え、多くの人に伝えるようにデザインを工夫する。	○		
11	●絵画(表現) (1) 基礎形態の表現 (2) 静物デッサン	・鉛筆で描く	立体の表現に興味をもち、感性や想像力を働かせて主題を生成する。鉛筆による技能を習得し、作品制作を行う。	○	○	
12	●映像メディア表現(表現) (1) フリップブック制作	・アニメーションをつくる	アニメーションの原理を理解し、技法や材料、用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら主題を読み取って表現する。	○		
1	●デザイン・彫刻(表現) (1) 粘土による罫置制作	・生命感をあらわす	材料、工程、用途、機能、美しさなどを考えて表現することに関心をもち、目的に応じて主題を生成し、形や色に表現する。			○
2	●彫刻・絵画(表現)(鑑賞) (1) 文様の浮き彫り彫刻 (2) 日本・アジアの美術	・文様で飾る	日本やアジアの伝統的な美術の表現の特質に関心をもち、文化について理解するとともに、よさや美しさを味わう。技法や材料、用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら主題を読み取って表現する。			○ ○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道 I	2	1	芸術選択

使用教科書	副教材等
書 I (光村図書)	なし

科目の目標 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的な活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
② 思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

評価方法	
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品・構想票等の提出物 ウ ワークシート等への記述内容 ア、イ、ウを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点			
				①	②	③	
4	漢字の書	・書道で学習すること ・書写から書道へ	中学まで学習した書写と、高校で学習する書道との共通点と差異を理解するとともに、書の様々な世界を知る(A表現)	○		○	
5		1.漢字の変遷とさまざまな書体	漢字の歴史について知る(B鑑賞)	○		○	
6		2.篆刻	書道の学習に必要な「正確さ」「厳密さ」を身に付ける(A表現)(B鑑賞)		○		
			字典の使用法を理解し、漢字の変遷と篆書の基礎を知る(A表現)		○		
			印稿の制作(A表現)		○	○	○
7		3.楷書	運刀、押印、篆刻作品制作(A表現)			○	○
			筆の動きが線の形や印象を形成していることを理解する(B鑑賞)		○	○	○
			はね、波磔の形の違いと共通点を見つけ、表現できる(A表現)		○	○	
9		・欧陽詢、虞世南の書	点画の配置の基本を知り、注意して表現できる(A表現)		○	○	
			紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)			○	○
			古典の印象の違いの原因となることを見つけ、再現できる(A表現)(B鑑賞)		○		
10		・褚遂良、龍門石窟、磨崖の書	紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)		○		○
			制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)		○	○	○
			4.行書	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)		○	○
11		・王羲之の書(蘭亭序)	行書の基礎を知り、筆画を連続させる技法を身に付ける(A表現)(B鑑賞)		○		○
			筆画の形の変化や、点画の省略について知る(A表現)		○		
			筆画の繋がりや紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)			○	○
12		・空海の書(風信帖) ・顔真卿の書(争座位文稿)	古典の表現の違いや、特徴を理解する(B鑑賞)		○		
	連続について知り、表現できる(A表現)(B鑑賞)			○	○		
	連続と紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)				○	○	
1	5.草書、隸書、篆書	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)		○		○	
		各書体の特徴と筆法を知る(A表現)(B鑑賞)		○		○	
		制作する語句にふさわしい形式・構成を考え、制作できる(A表現)		○	○		
2	1.仮名の成立と種類	ひらがな・カタカナの成立過程と、種類について知る(B鑑賞)		○		○	
		基本的な平仮名と代表的な変体仮名およびカタカナの書法を理解する(A表現)		○	○		
		連続した表現ができる(A表現)			○	○	
		正確な臨書作品が制作できる(A表現)(B鑑賞)		○	○		
3	2.蓬萊切、高野切第三種	散らし書きの基本を知る(A表現)		○		○	
		散らしと書風による印象の違いを理解する(A表現)(B鑑賞)		○	○		
		正確な臨書作品が制作できる(A表現)(B鑑賞)			○	○	
		和歌の散らし書きによる半懐紙作品を制作する(A表現)		○	○	○	
4	3.三色紙	1.漢字仮名交じりの書とは	作品の鑑賞を通して、芸術としての漢字仮名交じりの書を知る(B鑑賞)	○		○	
		2.心に響く言葉を書く	言葉の大切さを理解する(A表現)	○		○	
		3.創作作品制作	言葉をどんなイメージで伝えたいかを意識し、使用する漢字の書体(楷書・行書)と、それにふさわしい仮名(平仮名・カタカナ)の効果的な表現を考える(A表現)	○	○		
		4.創作作品鑑賞	言葉を表現の目的を意識し、紙面構成、用具、用材を工夫し、制作する(A表現) 他者の作品を鑑賞し、制作者の意図や目標、作品に込められた心情を味わう(B鑑賞)		○	○	
5	4.創作作品制作	各単元で学習した技能や知識を活かし、構成やサイズ、墨色なども工夫し、自ら感動を覚えた語句を素材に作品を制作する	自分の心に響いた素材となる語句を選ぶ(A表現) はっきりと作品のイメージを描き、表現方法を考える(A表現) 制作する(A表現)	○	○	○	
		他者の作品を鑑賞し、印象を言葉として伝える(B鑑賞)		○	○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅱ	2	2	自由選択A群

使用教科書	副教材等
教育芸術社 「MOUSA②」	ソプラノリコーダー

科目の目標
<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	曲想と音楽の構造や歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性などについて理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現について必要な技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素の働きや要素同士の関連を感受しながら、表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽と豊かに関わり、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

評価方法	
ア 定期テストや小テスト	【評価の観点 知識を体系的に理解しているか。】
イ 課題の到達度テスト、表現活動の分析	【音楽的に表現する技能を身に付けているか】
ウ 行動の観察、確認、分析	【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現したり聴いたりしているか】
エ 行動の観察、確認、分析	【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が出来ているか】

学習計画						
月	題材または教材 (学習項目)	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●表現(歌唱) ソルフェージュ含	(1) リズムを聴きとる練習	・基本的な知識1 (簡単なリズムを演奏できる)	○		○
5		(2) リズムを打つ練習	・基本的な知識2 (複雑なリズムを理解し演奏できる)	○		○
		(3) 音程を聞き取る練習	・基本的な知識3 (2音間の様々な音程に慣れる)	○		○
		(4) 音程感のある発声練習	・基本的な知識4 (様々な音程に慣れる)	○		○
	●表現(器楽)	(1)ギター「Tears In Heaven」他	・コード譜に慣れるとともに、奏法による音色の違いを感受しながら自己のイメージをもって音楽表現している。		○	○
6	●表現(歌唱)	(1) ハナミズキ	・音程感を生み出す発声と言葉の発音の技能を身に付け、曲想や音楽の構造を理解した歌唱表現を創意工夫する。		○	○
7		(2) 日本歌曲「早春譜」他			○	○
9	●表現(器楽)	リコーダー (1)ソナチネ他	・リコーダーの独奏やアンサンブルを通して、曲にふさわしい奏法を身に付けるとともに、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する。	○	○	
10	●創作(器楽)	「EDMをつくろう」	・創意工夫を生かした創作のために反復・変化・対照などの手法を活用して、曲想の変化に合うドラムパターンを創作できる。	○	○	
11	●歌唱(表現)	(1) Nel cor più non mi sento (2)Vaga luna, che inargenti	・イタリア歌曲とドイツ歌曲の表現上の効果の違いに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組むことができる。		○	○
12	●鑑賞	(1) 連作歌曲集《冬の旅》				○
1	●表現(歌唱)	(1) ミュージカル音楽 (2) アリア	・声の特徴を感じ取りながら、歌唱法とアリアが歌われる場面の表情とのかかわりを考え、発声の特徴を理解する。		○	○
		●鑑賞	(2) 我が国や郷土の伝統音楽	・各地に伝わる風流踊を鑑賞したり調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深める ・音楽表現の共通性や固有性について気付いたことや考えたことを述べ合う。		
2	●創作(表現)	(1) 変奏や編曲	・音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって創造的に変奏や編曲をする。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術Ⅱ	2	2	自由選択A群

使用教科書	副教材等
光村図書「美術2」	なし

<p>科目の目標</p> <p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術と美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・美術と美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。
評価方法	
<p>ア 授業への取り組み等の行動観察</p> <p>イ 制作作品、アイデアスケッチ</p> <p>ウ ワークシート等への記述内容</p> <p>エ 提出物の内容</p> <p>アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	●絵画（鑑賞/表現） (1) 作家調べ (2) 絵画模写	・人物を描く	美術作品の時代背景や技法を調べる。作品の背景を知ることで作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心を持ち、作品を理解し、表現する。	○		○
6 7	●デザイン（表現） (1) 使うひとのためのデザイン	・問題解決のためのデザイン	目的や機能、状況から主題を生成し、表現するための形と色彩の構想を追求するとともに、意図に応じた創造的な表現を追求する。		○	○
9	●彫刻（表現） (1) 彫刻作品鑑賞 (2) 野菜の模刻	・素材と向き合う	日本やアジアの仏像作品を鑑賞し、彫刻作品の特徴を理解し、作品を鑑賞する。 野菜の成長過程や形態について理解し、表現する。着色においては混色の仕方を理解し、本物に近づける工夫をする。	○	○	
10	●デザイン（表現） (1) 色彩表現 (2) ポスター制作	・トータルデザインを考える	目的や機能、状況から主題を生成し、表現するための形と色彩の構想を追求するとともに、意図に応じた創造的な表現を工夫する。		○	○
11	●映像メディア表現（表現） (1) 四コマ漫画	・漫画表現の技法	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、構成等を工夫して創造的な表現の構想を練る。	○	○	
12 1 2	●絵画（鑑賞/表現） (1) 版画の基礎 (2) 多版多色刷り木版画	・版表現の可能性	日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、美術文化について知り、技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現する。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道Ⅱ	2	2	自由選択A群

使用教科書	副教材等
書Ⅱ(光村図書)	なし

科目の目標 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的な活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

評価方法
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品・構想票等の提出物 ウ ワークシート等への記述内容 ア、イ、ウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
漢字の書		1.個性豊かな漢字の姿	書体や書風の特徴を捉え、個性を味わう(B鑑賞) 書道の学習に必要な「正確さ」「厳密さ」を確認する(A表現)(B鑑賞)	○		○
		2.篆刻	正しくかつ効果的な字形や配置を考え、印稿の制作する(A表現) 運刀、押印、篆刻作品制作(A表現)	○	○	○
		3.象書		△	△	△
		・泰山刻石	基本点画の書法を理解する(A表現)(B鑑賞) 厳密な左右相称、正確な点画の配置と等分間を身に付ける(A表現) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)	○	○	○
		・石鼓文、臨石鼓文	動きや表情の小篆との違いを感じる(A表現)(B鑑賞) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)	○	○	○
		・金文、甲骨文	漢字の源流となる表現を感じとる(B鑑賞) 毛筆の表現力を活かし、再現できる(A表現)	○	○	○
		4.隸書		△	△	△
		・乙瑛碑、曹全碑、石門頌	基本点画の書法を理解する(A表現) 波磔や結構法による文字の特徴を理解する(A表現)(B鑑賞) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)	○	○	○
		・居延漢簡	肉筆から書法を再現する(A表現)(B鑑賞) 基本的な筆法を踏まえた自由な表現について理解する(B鑑賞)	○	○	○
		・創作作品制作	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)	○	○	○
		5.行・草書		△	△	△
		・十七帖、書譜	筆画の形の変化や、点画の省略について知る(A表現)(B鑑賞) 筆脈と紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
・集王聖教序、顔真卿の書	それぞれの書法の違いを理解する(B鑑賞) 毛筆の表現力を理解し、筆脈と紙面を意識した構成で再現できる(A表現)	○	○	○		
・創作作品制作	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)	○	○	○		
6.楷書		△	△	△		
・三国、北魏の書	様々な書風の楷書を理解し、表現できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○		
仮名の書		1.平仮名、変体仮名、カタカナ	様々な仮名の書き方を知る(A表現)(B鑑賞) 複数の変体仮名が使用できるようになる(A表現)	○		○
		2.高野切(一、三種)、本阿弥切、関戸本古今集	それぞれの古典の特徴を理解する(A表現)(B鑑賞) ふさわしい変体仮名の使用法を理解する(A表現) 正確な臨書作品が制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		3.香紙切、針切	多彩な表現を理解する(B鑑賞) 墨量の変化を意識した連綿が出来る(A表現) 正確な臨書作品が制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		4.創作作品制作(百人一首による半懐紙作品)	ふさわしい文字を選択できる(A表現) バランスのとれた紙面構成を考えられる(A表現)	○	○	○
漢字仮名交じりの書		1.風景を書いて表現する	作品を鑑賞し、印象をまとめる(B鑑賞) 表現を工夫し作品を制作する(A表現)	○	○	○
		2.古典の書風を生かそう	唐(楷・行・草書)、北魏(楷書)、漢(隸書)、東晋(行・草書)秦以前(小篆・金文・甲骨文)の古典をもとに構成する(A表現)	○	○	○
		3.創作作品制作	自らの感動を表現できる語句を採択し、ふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
創作作品制作		各単元で学習した技能や知識を活かし、構成やサイズ、墨色なども工夫し、自ら感動を覚えた語句を素材に作品を制作する	自分の心に響いた素材となる語句を選ぶ(A表現) はっきりと作品のイメージを描き、表現方法を考え制作する(A表現) パネル装に仕上げる(A表現) 仕上げた作品を鑑賞し、相互評価を行う(B鑑賞)	○	○	○
				○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	ソルフェージュ	2	3	自由選択B群

使用教科書	副教材等
教育芸術社 新・ソルフェージュ 単声 多声のリズムやメロディーと伴奏付き視唱	なし

科目の目標 ソルフェージュに関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成する。 (1) 視唱 (2) 視奏 (3) 聴音
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	楽譜の記譜法について理解し、聴き取ったり演奏したりできる。視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にすることを養う。

評価方法
ア 小テスト 【評価の観点 知識を体系的に理解しているか】 イ 課題の到達度テスト、表現活動の分析 【音楽的に表現する技能を身に付けているか】 ウ 行動の観察、確認、分析 【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現したり聴いたりしているか】 エ 行動の観察、確認、分析 【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が出来ているか】

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			
				①	②	③	
4	●楽典 音符、休符の理解	リズム編	<ul style="list-style-type: none"> ・音符と休符を理解し、初見でリズム演奏ができる。 ・リズムに関心を持って音楽表現に必要なリズムの技能を身に付けている。 	○	○	○	
5	●リズム聴音視唱・視奏						○
6	●旋律聴音			伴奏付き視唱編	<ul style="list-style-type: none"> ・音高・音価を理解し、5度以内の平易な旋律が聴きとれる。 ・視唱や視奏を通して、正しい音程感を身につける。 		○
7	●旋律視唱						
7	●楽典		・調号や変化記号の意味を学ぶとともに記譜法について習熟する。	○	○		
9	●楽典 音程や和音の理解	教師作成教材	・音程、和音の知識によって、視唱、視奏や聴音の感覚を向上させる。	○	○	○	
10	●リズム視奏 ●リズム聴音	リズム付き視唱編	・タイを含むリズムなど拍節感が不安定なリズムに習熟する。		○	○	
11	●旋律視唱	メロディー視唱編	・5度を越える音域や、派生音を含む旋律について視唱・視奏する。	○	○		
12	●旋律聴音		・オクターブ内の跳躍を含む旋律が聴きとれる。	○	○	○	
1	●創作	伴奏付き視唱編	・音楽知識（音符や休符など）を生かしたメロディーの創作によって、音楽を形づくっている要素を知覚、感受できる。	○	○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽理論	2	3	自由選択B群

使用教科書	副教材等
教育芸術社 おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論	なし

科目の目標 音楽理論の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目指す。 (1) 楽典、楽曲の形式など (2) 和声法
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	表現や鑑賞に音楽理論を活用する思考力、表現力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度で、学習に臨もうとする。

評価方法	
ア 小テスト	【評価の観点 知識を体系的に理解しているか。】
イ 課題の到達度テスト、表現活動の分析	【音楽的に表現する技能を身に付けているか】
ウ 行動の観察、確認、分析	【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現したり聴いたりしているか】
エ 行動の観察、確認、分析	【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が来ているか】

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●音と楽譜の関係	プレリュード 五線と鍵盤	<ul style="list-style-type: none"> 五線の各線・各間、加線の名称を覚える。 音部記号の種類と名称をの理解する。 譜表の種類とその名称、表記の仕方を目的に応じて選択できる。 	○	○	
5 6	●リズムと拍子の知覚	第1章 リズムと拍子	<ul style="list-style-type: none"> 音符、休符の音価の理解 楽曲中のリズムの変化や異なる拍子の楽曲を鑑賞し、それぞれの特徴を感じ取れる。 		○	○
7	●各種音階や調性の理解	第2章 音階と調	<ul style="list-style-type: none"> 幹音、派生音及び変化記号の表記の仕方とその意味を理解する。 度数、複音程、転回音程を理解する。 	○	○	
9 10	●各種音階や調性の理解	第2章 音階と調	<ul style="list-style-type: none"> 音程の種類～完全・長・短・増・減・重増・重減などの音程の種類を理解し、音程を正確に答えられるようにする。 7音音階と5音音階の性格の違いを感じ取れる。 長調、短調(自然・和声的・旋律的)の特徴と音階構成音の名称及び転調による楽曲構造の仕組みについて鑑賞し、理解する。 	○	○	○
11	●各種和音の理解	第3章 和音と伴奏	<ul style="list-style-type: none"> 和音(三和音 七の和音)の構成について理解する。 和音の機能について理解する。 	○	○	
12	●和音進行の理解		<ul style="list-style-type: none"> 和音の機能と進行、和声と旋律の関係を理解しながら、表現したい意図をもって伴奏する。 	○	○	○
1	●特徴的なコード進行や伴奏法の工夫	第4章 アレンジしよう	<ul style="list-style-type: none"> 和音の機能と進行、和声と旋律の関係を理解しながら、表現したい意図をもって演奏する。 楽器固有の音色や奏法によって生み出される響きや表情を感受しながら、表現する。 	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
美術	素描	2	3	自由選択B群

使用教科書	副教材等
どうすれば上達するかがよくわかる 静物デッサン(誠文堂新光社)	なし

科目の目標 素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。 (2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 造形表現を追求する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	造形表現を追求する態度を身に付けている。
評価方法	
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ デッサン、スケッチ ウ ワークシート等への記述内容 アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	1 基本形体(鉛筆)デッサン① 「立方体(直方体)」	・基礎知識編	(1) 透視図法(1点、2点、3点)の考え方について理解し、作図法を習得する。 (2) 構図の注意点を理解し、モチーフを画面にバランスよく収める。 (3) 透視図法の考え方に基づいて形体を正しく表現する。	○		
5	2 基本形体(鉛筆)デッサン② 「円柱」		(1) 構図の注意点を理解し、モチーフを画面にバランスよく収める。 (2) 透視図法の考え方に基づいて形体を正しく表現する。(底面・上面の楕円の変化) (3) ハッチングにより円柱の上面の明度、側面の面、明度の変化を正しく表現する。	○		
6	3 静物(鉛筆)デッサン 「複数モチーフ」	・実践編	(1) 複数のモチーフを画面にバランス良く収める。 (2) 透視図法の考え方に基づいて形体を正しく表現する。 (3) 明暗表現により立体感や固有色の違いを的確に表現する。		○	○
7	4 手の(鉛筆)デッサン		(1) バランスの良い構図(大きさ・配置)で描く。 (2) 手のプロポーションに注意して正しい形体で表現する。 (3) 明暗表現による立体感や、固有色の明度を的確に表現する。 (4) 各部分(皮膚・爪)の質感を的確に表現する。	○		
9	5 石膏(木炭)デッサン	・どンドン描こう	(1) バランスの良い構図(大きさ・配置)で描く。 (2) 各部分のプロポーションに配慮して正しい形体で表現する。 (3) 明暗表現により立体感や量感を的確に表現する。	○		○
10 11	6 静物(鉛筆)デッサン 「大型モチーフ」		(1) 複数のモチーフを画面にバランス良く収める。 (2) 透視図法の考え方に基づいて形体を正しく表現する。 (3) 明暗表現により立体感や固有色の違いを的確に表現する。 (4) 各モチーフの質感の違いを的確に表現する。		○	○
12 1	7 人物クロッキー	・色をつけよう	(1) バランスの良い構図(大きさ・配置)で描く。 (2) 各部分のプロポーションに配慮して正しい形体で表現する。 (3) 動勢や量感を的確に表現する。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
美術	構成	2	3	自由選択B群

使用教科書	副教材等
日本文教出版「表現と技法」	なし

<p>科目の目標</p> <p>構成の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、基礎となる技能を身につける。</p> <p>(2) 造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 造形感覚を高めようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	造形的な創造活動に関わる要素について理解している。基礎となる技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育てようとしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	造形感覚を高めようとする態度を養っている。

評価方法
<p>ア 授業への取り組み等の行動観察</p> <p>イ 制作作品、アイデアスケッチ</p> <p>ウ ワークシート等への記述内容</p> <p>エ 提出物の内容</p> <p>アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	ポスター制作	・ポスター1 ・ポスター2	・身近なポスターを題材にして、構成美・配色・メッセージ性・印象などを分析・理解し、平面としての造形性について、表現及び感性や創造力を高めていく。 ・身近なポスターや用途・伝達目的に応じたデザイン作品、および、授業作品の鑑賞を行う。		○	○
7	イラストレーション	・イラストレーション	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追及し表現する。	○		
9 10	平面構成	・連続模様の工夫	伝統の染料である藍を使用し、染色への理解を深め、創造的な思考力・判断力・創造力を高める。 また、伝統工芸を型彫りを通し、パターンを活かして美的な造形性について表現及び鑑賞の能力を高める。		○	○
11 12	立体構成	・遊びのデザイン	構成の美しさなどを考えながら、造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力や判断力を高める。	○		
1	フロッタージュ版制作摺り	・表現につなげる技法1～3	技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現する。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅲ	2	3	自由選択C群

使用教科書	副教材等
教育芸術社 「JOY OF MUSIC」	ソプラノリコーダー

<p>科目の目標</p> <p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表現している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽活動の喜びを味わうとともに音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

評価方法	
ア 定期テストや小テスト	【評価の観点 知識を体系的に理解しているか。】
イ 課題の到達度テスト、表現活動の分析	【音楽的に表現する技能を身に付けているか】
ウ 行動の観察、確認、分析	【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感じながら表現したり聴いたりしているか】
エ 行動の観察、確認、分析	【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が出来ているか】

学習計画						
月	題材または教材 (学習項目)	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●表現(歌唱)	(1) 日本歌曲(POPS含む)	・自分が表現したい意図を明確にもち、曲種に応じた発声を生かす技能などを応用し、創意工夫して歌う。	○	○	
5	●表現(器楽) ギター・リコーダー	(1) 「3つのジムノペディ」他	・曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、音楽の構造を把握して、作曲者の意図をくみ取って演奏する。		○	○
6		(2) 「間奏曲」			○	○
7	●創作(表現)	(1) ファンファーレ創作	・自分が表現したい意図を明確にもち、様々な音素材の表現効果を生かした構成を意識して、創作する。	○	○	
9	●表現(歌唱)	(1) アカペラ	・表現形態にふさわしい表現の仕方を工夫し、楽曲の持ち味を大切にしていよりよい表現を追求して歌う。	○	○	
10						
11	●表現(器楽)	(1) 和楽器「篠笛」	・楽器の音色や奏法の特徴を生かす技能を応用しながら、郷土の伝統音楽に対する理解を深めて演奏する。	○	○	
12	●鑑賞	(1) 現代音楽	・現代の我が国及び諸外国の音楽の様相を概観し、様々な音楽の持つ価値について考えながら鑑賞できる。		○	○
						○
1	●表現(歌唱)	(1) 日本のポップス (2) 外国のポップス	・楽曲の特徴を理解し、自分が表現したい意図を明確にもったうえで、楽曲やその表現を客観的にとらえて歌う。		○	○
2	●表現(器楽)	(1) アンサンブル	・特性やグループの規模・形態に合った教材を自ら選択し、楽曲の良さを大切に表現を重視しながら、創造的に演奏する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術Ⅲ	2	3	自由選択C群

使用教科書	副教材等
光村図書「美術3」	なし

<p>科目の目標</p> <p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造する態度を養っている。

評価方法
<p>ア 授業への取り組み等の行動観察</p> <p>イ 制作作品、アイデアスケッチ</p> <p>ウ ワークシート等への記述内容</p> <p>エ 提出物の内容</p> <p>アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	●彫刻 (鑑賞/表現) (1) ランプシェード制作	・自然の力を生かして	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、形体、構成等を工夫して創造的な表現の構想を迫及する。機能も意識して制作をする。		○	
6	●絵画/版画 (表現) (1) メディウム剥がし刷り	・私のいる世界	技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現する。	○	○	
7	●デザイン(表現) (1) 自画像デッサン (2) 仮面制作	・鉛筆の可能性 ・生命のサイクル	材料、工程、用途、機能、美しさなどを考えて表現することに関心をもち、目的に応じて主題を生成し、工夫して形に表現する。		○	
9 10	●デザイン(表現) (1) 日本の伝統的な文様デザインと色彩 (2) 風呂敷制作	・安心をつくるデザイン	日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、主題や表現方法、日本及び諸外国の美術文化について、深く理解する。主題を基に、素材や表現形式の特性をいかし、創造的な表現の構想を迫及する。	○		○
11 12	●絵画/版画 (表現) (1) 銅版画制作	・私のいる世界	主題を基に、素材や表現形式の特性と、形や色彩、質感などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を迫及する。	○	○	
1	●絵画 (共同制作/表現) (1) グループワーク (2) アイデアスケッチ (3) 制作活動	・書物のデザイン	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、共同で主題を迫及し表現する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道Ⅲ	2	3	自由選択C群

使用教科書	副教材等
書Ⅲ(光村図書)	なし

科目の目標 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的な活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づくとともに、個性を生かして作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書道を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、書の伝統と文化と豊かに関わり、心豊かな生活や社会を創造する態度を養っている。

評価方法
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品・構想票等の提出物 ウ ワークシート等への記述内容 ア、イ、ウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	漢字の書	1.篆書 ・散氏盤 ・天發神讖碑 ・趙之謙の書 ・戦国時代の書	文字の特徴を理解する(A表現)(B鑑賞) 筆画の表現方法を理解する(A表現) 文字の造形や運筆のリズムを理解する(A表現) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	
		2.隸書 ・礼器碑 ・木簡 ・金農の書 ・開通褒斜道刻石	文字の特徴を理解する(A表現)(B鑑賞) 筆画の表現方法を理解する(A表現) 文字の造形や運筆のリズムを理解する(A表現)(B鑑賞) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	
		創作作品制作 3.行書・草書 ・王羲之の書 ・温泉銘 ・明、清時代の書	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)(B鑑賞) 筆画の表現方法を理解する(A表現) 文字の造形や運筆のリズムを理解する(A表現)(B鑑賞) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		4.楷書 ・爨宝子碑 ・高貞碑	文字の造形や運筆のリズムを理解する(A表現) 紙面を意識した構成で臨書作品を制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		創作作品制作	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		9	1.平安時代中・後期の書 ・秋萩帖 ・升色紙 ・桂宮本万葉集	草仮名の書法を理解する(A表現) 色紙の構成を知る(A表現)(B鑑賞) 漢字と仮名の調和を理解する(A表現)	○	○
10 11	仮名の書	2.平安時代末期の書 ・曼殊院本古今集 ・一条摂政集	個々の線質の特徴を理解する(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		3.鎌倉時代以降の書 ・更級日記、良寛の書	筆者の個性を感じながら表現する(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
		4.近世以降の書 ・カタカナの表現	漢字との調和を理解し表現する(A表現)	○	○	○
12	漢字仮名交じりの書	創作作品制作 言葉と表現の響きあいを捉える	制作する語句にふさわしい書風・構成を考え、制作できる(A表現)(B鑑賞) 作品を鑑賞し、印象をまとめる(B鑑賞)	○	○	○
		創作作品制作	自らの感動を表現できる語句を採択し、ふさわしい書体・書風・構成を考え、制作できる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
1 2 3	創作作品制作	各単元で学習した技能や知識を活かし、使用する書体、構成やサイズ、墨色なども工夫し、自ら感動を覚えた語句を素材に作品を制作する	自分の心に響いた素材となる語句を選ぶ(A表現)(B鑑賞) はっきりと作品のイメージを描き、主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求し、方法を考え制作する(A表現)(B鑑賞) パネル装に仕上げる(A表現) 仕上げた作品を鑑賞し、相互評価を行う(B鑑賞)	○	○	○
				○	○	○
				○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	演奏研究	2	3	自由選択E群

使用教科書	副教材等
教育芸術社 「改訂 音楽通論」	ソプラノリコーダー

<p>科目の目標</p> <p>音楽作品の演奏や鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音階の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けるとともに、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら解釈や価値を考えるなど、音楽的理解を深めている。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚しそれらの働きを感受しながら、表現意図を持って音楽表現を工夫している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽活動の喜びを味わいながら音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

評価方法	
ア	定期テストや小テスト 【評価の観点 知識を体系的に理解しているか。】
イ	課題の到達度テスト、表現活動の分析 【音楽的に表現する技能を身に付けているか】
ウ	行動の観察、確認、分析 【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現したり聴いたりしているか】
エ	行動の観察、確認、分析 【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が来ているか】

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●表現(器楽) ●鑑賞 (1) 多声音楽 (2) 和声音楽	(1) 楽譜の仕組み	・器楽を通して楽譜に慣れるとともに、多声音楽から和声音楽への変遷を感受する。また、そうした各時代の表現上の特徴を踏まえた解釈を研究する。	○	○	
5				○	○	
6	●表現(声楽) (1) 独唱		・歌唱活動を通して、自らの特徴を感じ取りながら、歌唱法と歌われる場面の表情とのかかわりを考え、理解して歌う。		○	○
7						
9	●表現(器楽) 鍵盤楽器独奏	(2) 音楽の仕組み	・音楽様式を理解し、アナリーゼを通して作品を解釈し、演奏の観点からフレージング、アーティキュレーションなどの表現方法を具体的に研究する。	○	○	
10				○	○	
11	●鑑賞 古典派音楽		・音楽様式の特徴を感じ取りながら、多様な音楽文化を理解しようとする心を醸成する。	○	○	
12				○	○	
11	●表現(器楽) リコーダー・打楽器アンサンブル		・アンサンブルによってより一層幅広い表現の諸能力を身に付け、楽曲のアナリーゼを通して、様式の理解を深め演奏する。		○	○
12						
1	●鑑賞 印象派の音楽	(3) 資料集	・音楽様式の特徴を感じ取りながら、多様な音楽文化を理解しようとする心を醸成する。	○	○	
2				○	○	
2	●表現(器楽) 鍵盤楽器アンサンブル		・楽器の特徴に着目して作品を解釈し、それらの特徴を生かすための表現方法を研究する。演奏の観点からフレージング、アーティキュレーションなどの表現方法を具体的に工夫する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	絵画	2	3	自由選択E群

使用教科書	副教材等
なし	日本文教出版「表現と技法」

<p>科目の目標</p> <p>絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 絵画表現の可能性を追求する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	・表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・絵画表現の可能性を追求する態度を養っている。

評価方法
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	●素描（表現） （1）静物・細密デッサン	・静物デッサン（鉛筆）	美術の創造活動の喜びを味わい、素描表現に関心をもち、主体的に主題を生成し、主題を追及して表現する。	○	○	
	●素描（鑑賞） （1）描画の実演視聴 （2）生徒参考作品の鑑賞		美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、作品を理解する			○
	●日本画（鑑賞） （1）伊藤若冲作品	・日本画の鑑賞	日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、主題や表現方法、日本及び諸外国の美術文化について、深く理解する。		○	○
7	●水彩画（表現） （1）技法体験	・発想・イメージ	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追及し表現する。	○		
9	●その他の絵画（表現） （1）織体験		表現形式を理解し、個性を生かしながら表現を追求する。	○	○	
10 11	●油絵（鑑賞） （1）描画の実演視聴 （2）生徒参考作品の鑑賞	・油絵の具との出会い ・静物画の鑑賞	美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、作品を理解する。		○	○
	●油彩画（表現） （1）油絵の用具について （2）静物画	・静物を描く	材料、工程、用途、機能、美しさなどを考えて表現することに関心をもち、目的に応じて主題を生成し、工夫して形に表現する。	○	○	
12 1	●版画（ステンシル／表現） （1）フロッタージュ （2）版制作 （3）摺り	・表現につなげる技法 1～3	自己の内面を見つめて考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	実用書道	2	3	自由選択E群

使用教科書	副教材等
はじめての小筆字(日本習字普及協会)	なし

科目の目標 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、実生活に活かした表現をするための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現を工夫したり、生活の中で書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的で効果的な書表現を考えながら、主体的に生活に生かす表現をすることができる
② 思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、自らの表現意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、生活の中の書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、それを生かして書を生活に生かすことのできる表現をしている。

評価方法 ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品・構想票等の提出物 ウ ワークシート等への記述内容 ア、イ、ウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
4	1,表現の基本	・姿勢と腕の構え方	正しい姿勢・筆の持ち方・腕の構え方を理解する(毛・硬)(A表現)	○		○
	5	2,漢字の基本	・楷書の基本点画 ・文字のバランス	楷書の基本点画の書法を理解する(毛・硬)(A表現) 結構法の基本を知る(毛・硬)(A表現)	○	○
6		3,ひらがな・カタカナ	・ひらがな(一)(二)	正しいひらがなの形を理解する(毛・硬)(A表現)	○	
	・カタカナ		正しいカタカナの形を理解する(毛・硬)(A表現)	○		
7	4,実用書式①	・二字・四字熟語 ・漢字かな交じり文 ・俳句・和歌	二字・四字熟語を通して横書き縦書きの様式を知る(毛・硬)(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
			漢字かな交じり文・俳句・和歌により様々な日常書の様式を身に付ける(毛・硬)(A表現)(B鑑賞)	○		○
			履歴書の書様式を理解し表現法を習得する(硬)(A表現)	○		○
			横書き(硬)(A表現)		○	○
			縦書き(毛・硬)(A表現)		○	○
9	5,実用書式②	・行書の基本点画・手紙用語・手紙・葉書	掲示物(毛)(A表現)(B鑑賞)		○	○
			熨斗袋(毛)(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
			行書の基本点画の書法を理解する(毛・硬)(A表現)	○		○
10			かなの連綿の書法を身に付ける(毛・硬)(A表現)	○	○	○
			手紙用語の書法と使い方を知る(毛・硬)(A表現)	○		○
			季節の挨拶の使い方と意味を理解する(毛・硬)(A表現)	○	○	○
			封筒の書式を知る(毛・硬)(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
11			礼状を書く(硬)(A表現)		○	○
			手紙(巻紙)を書く(毛)(A表現)		○	○
12			葉書の書式を理解する(毛・硬)(A表現)	○		○
			年賀状を制作する(毛・硬)(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
	6,実用書式③	・生活の中の書	小品創作作品制作(A表現)	○	○	○
			表装(裏打ち・額装)・展示し互いの作品を味わう(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
			感謝状の制作(A表現)	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	伝統・基礎音楽	2	3	自由選択D群

使用教科書	副教材等
教育芸術社 「スーパーガイドof雅楽」	なし

<p>科目の目標</p> <p>我が国の伝統音楽の種類と特徴を理解するとともに、礼儀や作法、服装や言葉遣いなど伝統芸能を継承する上で必要な基本姿勢を身につける。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	創意工夫を生かした雅楽の表現をするための知識や技能を身に付け、活用している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚しそれらの働きを感受しながら、表現意図を持った音楽表現を工夫している。日本独自の文化や雅楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽活動の喜びを味わい、日本の伝統文化や雅楽に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

評価方法
<p>ア 定期テストや小テスト 【評価の観点 知識を体系的に理解しているか。】</p> <p>イ 課題の到達度テスト、表現活動の分析 【音楽的に表現する技能を身に付けているか】</p> <p>ウ 行動の観察、確認、分析 【音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現したり聴いたりしているか】</p> <p>エ 行動の観察、確認、分析 【表現の追求において粘り強く取り組む姿勢や、改善行動が出来ているか】</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	●鑑賞 (1) 雅楽に触れる (2) 雅楽の楽器を知る	(1) 雅楽の基礎知識	・我が国の伝統音楽を形づくっている要素による特徴、発声法などの良さや美しさを味わって鑑賞する。また、日本人が大切にしている礼儀や作法について関心を持ちながら活動に取り組む。	○	○	
5	●表現(器楽)					
6	(1) 箏笛演奏 (2) 箏演奏	(2) 雅楽の楽器	・楽器固有の音色や奏法によって生み出される響きや表情などを感じ取って、表現に結び付ける。		○	○
7	●舞踊	(1) 雅楽の基礎知識	・非拍節的なリズムを知覚し、それらの働きによって生み出される独特の雰囲気などを感受しながら舞うことができる。	○	○	
9	●表現(歌唱)					
10	(1) 唱歌		・発声の特徴を感じ取って、表現に結び付けていくとともに、姿勢や体の使い方、呼吸法、などに着目して、発声の特徴を生かした表現を追求する。	○	○	
11	●雅楽 (1) 演目構成確認 (2) 演目実演		・アンサンブルにより、幅広い表現の諸能力を身に付け、日本伝統音楽独特の間や拍節感を感受しながら、奏者同士で心を通わせようとする。	○	○	
12	●雅楽 (1) 神社での発表		・神社や楽曲の文化的、歴史的背景を理解し、表現した音のイメージを膨らませながら、思いや意図をもって演奏や舞を行う。	○	○	○
1	●鑑賞 (1) 雅楽DVD	(3) 雅楽Q&A	・音楽を形づくっている要素を知覚、感受し、雅楽の特徴を理解することにとどまるのではなく、楽曲のよさや美しさを味わって鑑賞する。		○	○
	●表現(器楽) (1) 笙の演奏	(2) 雅楽の楽器	・楽器固有の音色や奏法によって生み出される響きや表情などを感じ取って、表現に結び付ける。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	森町の伝統工芸	2	3	自由選択D群

使用教科書	副教材等
なし	幻冬舎「知識ゼロからのやきもの入門」

科目の目標 工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにしている。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養っている。

評価方法	
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
	●鑑賞 (1) 森山焼工房について (2) 森山焼工房作品鑑賞	陶芸作品のよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り、制作過程における工夫や素材の生かし方、自然と工芸との関わり、生活や社会を豊かにする工芸の働きや陶芸(森山焼)の伝統と文化についての理解を深める。	・ワークシートの活用 ・レポートの作成			○
4	◇A班 ●社会と工芸(陶芸/ろくろ) (1) ろくろによる器作り (2) 仕上げ(高台、削り)	社会的な視点にたつて、使う人の願いや心情、生活環境などを考えて制作することに関心を持ち、主体的に発想し、使用する人や場に求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ろうと取り組む。制作するものの構造、材料の特性、用具の使用法などを理解し、意図に応じてそれらの効果を生かして制作しようとする。	・制作日誌 ・素焼きの作品 ・本焼きの作品			
5	(3) やすりがけ、撥水剤 (4) 釉がけ					
6	◇B班 ●身近な生活と工芸(陶芸/手捻り) (1) 玉作りによる湯呑み (2) 紐作りによるコップ (3) タタラ作りによる花器 (4) 仕上げ(高台、削り) (5) やすりがけ、撥水剤 (6) 釉がけ			○	○	○
7						
9	◇A班 ●身近な生活と工芸(陶芸/手捻り) (1) 玉作りによる湯呑み (2) 紐作りによるコップ (3) タタラ作りによる花器 (4) 仕上げ(高台、削り) (5) やすりがけ、撥水剤 (6) 釉がけ	社会的な視点にたつて、使う人の願いや心情、生活環境などを考えて制作することに関心を持ち、主体的に発想し、使用する人や場に求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ろうとする。制作するものの構造、材料の特性、用具の使用法などを理解し、意図に応じてそれらの効果を生かして制作する。	・制作日誌 ・素焼き前の作品 ・完成作品 ・ワークシートの活用			
10	(4) 仕上げ(高台、削り)					
11	(5) やすりがけ、撥水剤 (6) 釉がけ			○	○	○
12	◇B班 ●社会と工芸(陶芸/ろくろ) (1) ろくろによる器作り (2) 仕上げ(高台、削り) (3) やすりがけ、撥水剤 (4) 釉がけ					
1	●展覧会の開催 (1) 展示用キャプション製作 (2) 展示作業	日本の伝統的な工芸や美意識、表現方法などに関心を持ち、工芸の伝統と文化について理解しようとする。	・校外での活動を伴う ・評価について展示			○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道表現	2	3	自由選択D群

使用教科書	副教材等
墨アート 新しい表現活動への挑戦 (墨アートプロジェクト・株式会社墨運堂)	なし

科目の目標 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的な活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づくとともに、個性を生かして作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書道を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、書の伝統と文化と豊かに関わり、心豊かな生活や社会を創造する態度を養っている。

評価方法 ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品・構想票等の提出物 ウ ワークシート等への記述内容 ア、イ、ウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
	1.表現の基本 ・用具と用材 ・毛筆の特性	・墨アートの種類 ・墨についてのQ&A	毛筆、墨、紙について、基本的な性質を理解する(A表現)(B鑑賞)	○		
			毛筆の特性と能力を理解する(A表現)	○	○	○
			墨の特性と能力を理解する(A表現)	○	○	○
			紙の特性と能力を理解する(A表現)	○	○	○
	2.文字の表現		楷書、行・草書を練習し、表現できる書風を身に付ける(A表現)	○	○	○
	3.墨染め	傘模様・フリル・立体交差・浮き出し文字	にじみを生かす表現を行う(A表現)(B鑑賞)		○	○
			墨の特性を生かした表現方法を理解する(A表現)(B鑑賞)	○	○	
	4.マーブリング・ドローイング	マーブリングの手順・展開ドローイングの基本・展開	手順を理解する(A表現)	○		
			様々な技法による効果を理解する(A表現)(B鑑賞)	○	○	○
5.一文字アート		効果的に漢字一文字と組み合わせた作品を制作する(A表現)	○	○	○	
6.表装の学習①		作品に裏打ちを施す(A表現)	○	○	○	
		作品を鑑賞し相互批評を行う(B鑑賞)	○	○	○	
7.平仮名・カタカナの学習		単体・連綿の運筆を理解する(A表現)	○			
		様々な書法の効果を理解する(A表現)(B鑑賞)		○	○	
		俳句・短歌(和歌)を題材とした作品を仕上げる(A表現)	○	○	○	
8.漢字仮名交じりの書の学習		詩文を題材に作品形式、紙質や墨色、効果など表現を工夫した作品を制作する(A表現)(B鑑賞)	○	○	○	
9.表装の学習②		制作した作品を表装(軸装・額装・パネル装)し、展示できる作品に仕上げる(A表現)(B鑑賞)	○	○	○	